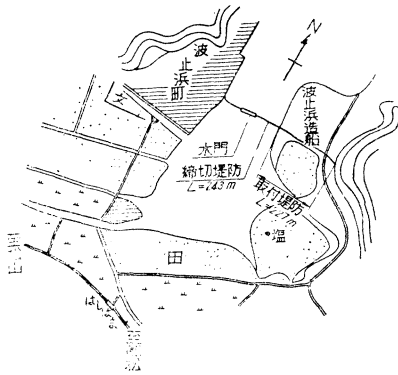


愛媛県波止浜水門完成

愛媛県波止浜町一帯は南海地震後地盤の沈下はなほ大きく、0.5~1m 程度の沈下が測定せられ、特に昭和 25 年キジャ台風には高潮のため約 2 億、昭和 29 年 12 号台風には約 2000 万円の大被害をうけたが、この対策として波止浜湾の最狭窄部を締切り、そのほぼ中央に 3 径間総通水幅員 30 m の水門を築造し、その中央水門は通船水門として計画し他は接続堤をもつて締切り、堤防後背地の排水をはかるとともに、高潮を防御し、背後地の塩田に支障がないよう海水を送水し、かつ舟航の便をはかるよう計画した。当初事業費 2 億 1000 万円で潮止樋門 47.8 m、締切堤 243 m、取付堤 227 m である。昭和 28 年に準備工および取付堤防の一部、昭和 29 年に水門工事に着手したが、軟弱地盤のため難工事となつた。水門基礎は長さ約 20 m、径 4.0 m の井筒 8 本が用いられ、水門基礎施工のための仮締切堤は 10.0 m の鉄矢板を二列に打ち、その中に掘削土をつめて施工したが、工事の進捗にもとない補強を重ねて水門を完成した。現在締切堤の一部に着手している。

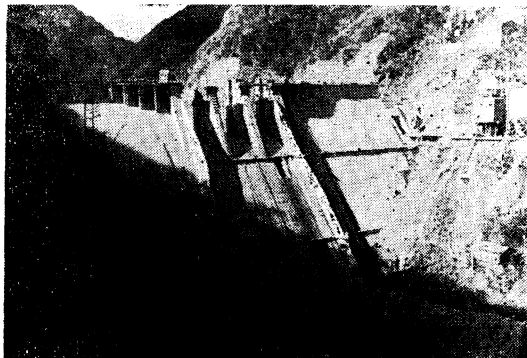
波止浜水門設置カ所見取図



宮川ダム湛水を開始

三重県が多目的ダムとして昭和 28 年以来施工してき

宮川ダム



た県宮川ダム（三重県多気郡大杉谷村大字久豆 宮川水系宮川）は昭和 31 年 12 月 14 日より一部湛水を開始した。

以下ダムの概要をしるす。

ダム型式：重力式コンクリート	総貯水量：70 500 000 m ³
堤 高：87 m	有効貯水量：56 500 000 m ³
堤 体 積：392 661 m ³	計画洪水量：2 500 m ³ /sec
掘 削 量：139 300 m ³	調節流量：1 000 m ³ /sec
越流設備：ローラーゲート 3 門 (14.8×10 m)	かんがい面積：5 430 町歩
総事業費：8 670 000 000 円	増産石数：53 194 石
集水面積：125.6 km ²	最大発電力：54 800 kW
	年間発電電力量：244 687 000 kWh

1957 年度世界プレストレスト コンクリート会議開催

1957 年度の世界プレストレスト コンクリート会議は、カリフォルニア大学主催、プレストレスト コンクリート学会共催で下記により開かれることになつた。

日時：1957 年 7 月 29 日～8 月 2 日

場所：サンフランシスコ (Fairmont Hotel)

会費：25 ドル

プログラム

- 7 月 29 日：PC の基礎原理，材料および技術に関する討論会
- 7 月 30 日：PC の製作と管理，設計と規準に関する討論会
- 7 月 31 日：PC 製作工場および施工現場見学
- 8 月 1 日：PC 曲面版および平面版構造に関する研究発表会
- 8 月 2 日：諸外国における PC の研究，設計，施工に関する研究発表会

論文提出 研究論文題目は 300 語程度の内容紹介をそえて 1957 年 2 月 1 日までに、論文全文は 1957 年 4 月 1 日までに下記あて送付する。なお、論文および通信文はすべて英文とする。

Prof. T.Y. Lin
Division of Civil Engineering
University of California.
Berkeley 4, California
U.S.A.

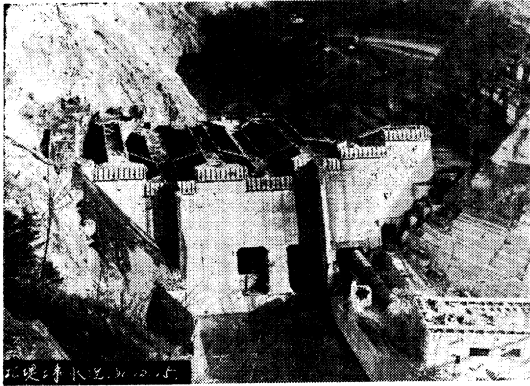
上記会議に関するくわしい案内書は下記へ申込み次第送付されることになつている。

Dept. of Conference and Special Activities
University Extension
University of California
Berkeley 4, California
U.S.A.

中電井川ダム建設進む

昨年 12 月現在の工事状況を次の写真に示す。中電が静岡県井川村に建設中のホロー・グラビティ・ダムで、高さ 100 m、堤頂長 240 m、堤体積 40 000 m³ のダムである。

井川ダム



国立競技場起工式挙行される

長く親しまれていた明治神宮外苑陸上競技場は、明年5月24日から東京でアジア・オリンピック大会が開催される関係で拡張することとなり、文部省に工事が委託され関東地方建設局が13億円で改修することとなった。12月28日、秩父宮妃殿下をお迎えして、南条建設大臣・灘尾文部大臣・米田技監・平山土木学会会長（代理）星埜委員など関係者400名出席のもとに起工式が挙行された。

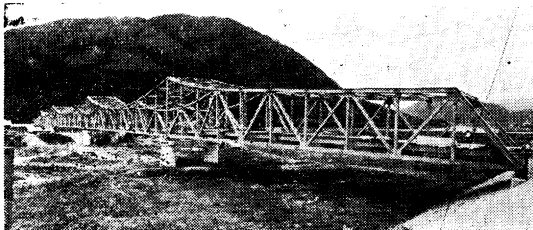
太田川橋竣功す

二級国道、広島松江線、広島県可部町において太田川に架かる太田川橋は、昭和28年建設省の直接施工として着工したが、本年1月に竣功の予定である。橋長323m、幅員9m、総工費301,000,000円、新しい鋼道路橋設計示方書により設計、架設された長大橋梁である。

上部工は、スパン割53.70+64.44+85.92+64.44+53.70m、5スパンの下路ゲルバートラス橋で新三菱重工業KKにより製作架設された。総鋼重1,181.45t、1m²当り鋼重388kg、架設方法はスレージングによつた。床版工事は直営施工で、舗装は厚さ5cmのアスファルトコンクリートである。

下部工は井筒長6mの橋台2基、簡易潜函長12~13mの橋脚4基で、KK大本組の施工になり、昭和29年2月着工、30年3月竣功した。

太田川橋



エカフェ第6回内陸運輸委員会の開催

タイ国バンコックにおいて来る2月15日より21日

にかけて第6回内陸運輸委員会が開催されることになった。これはバンガローアにおいて行われた第12回エカフェ総会の決議により召集されたものであるが、本委員会は毎年1回定期的に開かれており、この下に鉄道、道路、内水路の各小委員会があり、実際の研究活動を行っているもので、来る5月に日本において行われる道路交通安全に関するセミナーもこの活動の一環である。

本委員会には日本政府としても代表を派遣すべく目下選考中である。議題の内容は主として次のようなものである。

1. 鉄道小委員会報告
2. 道路小委員会報告
3. 内水路小委員会報告
4. 輸送各部門の調整
5. あらゆる方策を利用して最大の能率と全面的利用をうるような輸送体系確立の統計的研究
6. 冷凍内陸輸送
7. 輸送企業における計算の機械化
8. 圖書のサービス
9. 通信発達の報告
10. 事業計画と優先順位

等であり、これらの種々の問題に対して日本が技術的なアドバイスを行うことを期待しており、積極的な参加が望まれている。

運研物象部（久里浜）に世界第二の造波水路完成

運輸技術研究所港湾物象部（久里浜）において昨年度より建設中の大型造波水路は、このほど造波機械の最後の調整が終了し、いよいよ実験開始の運びとなつた。水路は半地下式、長さ

105m、幅3m、深さ2.5mの鉄筋コンクリート造りで、環流水路と調整水槽を付属させている。この施設はアメリカについて世界第二の規模を持つており、造波装置は振子式であるから深海波、浅海波いづれの実験にも適し、7秒から1秒までの任意の周期の波を発生させることができ、最大波高は75cm

である。造波水路の規模が大きいので実物の1/10~1/5の縮尺で実験できるためにきわめて精度が高く、この水路で実験することによつて来襲波浪の防波堤および海岸構造物におよぼす影響についての新事実が、つぎつぎと究明されてゆくことと思われる。

運研の造波水路

